

平成29年度 地域力再生プロジェクト支援事業交付金 交付決定一覧(第1回分)

番号	事業名	団体名	代表者		事業実施地域	主な活動の種類	事業概要	事業費(単位:円)		備考
			役職名	氏名				交付金申請額		
1	初心者やスポーツが苦手な人でも楽しく参加できるスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)	総合型クラブ天の架け橋～rainbow～	理事長	松岡 照幸	宮津市	地域スポーツ振興	「誰もがいつでもいつまでもスポーツができる環境作り」を目的に活動してきたが、近年等地域のスポーツを取り巻く状況は厳しく、チームの維持や種目が限定的、子供たちの体力低下が見られる。また、参加者も固定化され、初心者が入り難く継続しづらい現状もある。他にも地域コミュニティの脆弱化など人間関係の希薄化により様々な問題がある。地域コミュニティ機能の再構築し、初心者でも安心して参加できる機会を増やし、スポーツの活性化に取り組むことで健康で活気あふれる明るいまちづくりに貢献する。	1,502,312	500,000	
2	成相本坂道整備事業	成相本坂道を守り伝える実行委員会	代表	羽瀧 徹	宮津市	地域文化振興	本坂道は江戸時代より成相寺への主要な参詣道として歴史的な場所であるが、認識が希薄で山道も歩くのに困難となっている。山道の保全、展望台の設置、周辺雑木の伐採や地域住民との清掃作業、ウォークラリー等を行い交流を図り郷土愛につながる場所をつくる。	3,171,728	1,000,000	
3	世屋の土と水モノづくり～景観とともに未来へつなぐ世屋和紙プロジェクト～	世屋の土と水モノづくりプロジェクト実行委員会	会長	山田 歩	宮津市	地域文化振興	少子高齢化社会の中で山間部、農村地域の維持継続や里山の保全が難しくなっており、根源は働き盛りの世代住民が減少していくことにある。世屋地区は魅力的な景観から訪れる人は後を絶たないが定住者は少ない。地域の資源を活用した移住者の職づくりのため、世屋地域の伝統文化であった和紙作り振興のため、原材料の確保(植栽増大)と耕作竹林の整備を行い、地域美化、土砂災害防止と資源確保を行う。和紙は都市交流や福祉事業等へ役立てる。	660,000	220,000	
4	地域食材を活用した商品・メニューの開発	地域食材メニュー開発検討会議	会長	山崎 浩孝	宮津市	地域産業振興	豊富な山海の食材を誇る当地において、これらの食材を活用したメニュー化、商品化することで新たな魅力として発信する。これらのメニュー、商品に関して提供するまでのプロセス、取り組みを通じて地域の雇用増進にも発展させることとし、地場産業の振興を目指す。 【昨年度確定額 124千円】	332,000	110,000	
5	丹後砂丘における清水川周辺海岸清掃プロジェクト	丹探学会	会長	糸井 昭	京丹後市	環境保全	京都府京丹後市久美浜町湊宮から網野町浜詰に至る丹後砂丘は、毎年夏になると美しい海岸景観を求め、多くの利用客が訪れる観光地となっている。しかし、毎年の冬場の荒波・危険な漂着物を含む大量のゴミ、しかも長年に亘るゴミ等の堆積でゴミの山(小山)となり景観が損なわれている。この小山を取り除き、丹後砂丘の景観の保持に取り組むとともに、地域住民へ定期的な清掃活動の呼びかけを行う。	300,000	200,000	
6	日本海×アート×漂流	丹後アート会議「大地は器」	代表	池田 修造	京丹後市	地域文化振興	丹後半島に毎年打ち上げられる漂流物は日常生活やゲリラ豪雨による倒木など多種多様であり、環境悪化につながっている。海岸に出て漂流物を拾い、作品化し展示することで、京丹後市民や観光客にアピールし、地域の環境に目を向け考えるきっかけとする。	360,000	120,000	
7	五十河地域における内発的地域再生推進事業	五十河地区区長会	会長	柿本 秀樹	京丹後市	共助型福祉	五十河地域は、人口減少や高齢化率50%に近く、地域活動の担い手も減少するなど活動の維持・継承が大きな負担となっている。 改善するため、京丹後市外の大学生が地域活動等について聞き書きを行い、多世代交流型イベントを実施し担い手との交流を深め、地域活動の現状を内外に情報発信し、地域活動の価値を再定義する。	300,000	200,000	
8	引原峠銀杏公園、浜詰ハケ山夕桜公園整備事業	楽夕会	会長	白井 正博	京丹後市	地域産業振興	高齢化による畑の耕作放棄や、夏、冬シーズンの集客しにくく行楽シーズン(春・秋)が閑散期となるため過年の雇用ができず若者の就職難が少子高齢化の一因となっている。耕作放棄地等を整備し付加価値をつけ、観光資源として活用することにより観光客の増加、若者がUターンしやすい環境づくり、地域のシンボルとしての継承を図る。	1,531,599	510,000	
9	袖志棚田再生プロジェクト	袖志棚田保存会	会長	平井 貞夫	京丹後市	農村・都市交流	高齢化と担い手不足が地域課題となっており、棚田の荒廃化が進んでいる。田植え等で都市部と地域との交流や環境保全に尽力しているが、保存会の高齢化に伴い、活動に対する意識や気力が低下している。本事業で保存会の取り組みをさらに多くの人に知ってもらい、若い力とともに地域の活気を持続させていくきっかけにする。	336,000	112,000	
10	この猫探せ！この町のこせ！	こまねこまつり実行委員会	会長	田中 智子	京丹後市	地域文化振興	人口減、高齢化社会、経済低迷の中、交流人口を増やし活性化のための仕組みのため、重要な地域資源である「猫」と「丹後ちりめん」の歴史と文化をふまえて国内外に広く発信し、流入人口拡大により経済活性化を目指し、町全体が一体となり盛り上がることを目的に、ワークショップ、ツアー等を実施し、ちりめん300年、オリンピックイヤーへの向けて地域活性化を目指す。	1,030,000	300,000	
11	ゆめサンサンロード見守り隊(仮)	峰山地区河川整備等まちづくり促進協議会	会長	稲葉 悦夫	京丹後市	地域美化	小西川の河川改修促進や環境美化、遊歩道「ゆめサンサンロード」の維持管理や遊歩道を生かしたまちの活性化をおこなっているが、交流人口は増えたがゴミの投棄やペットの糞の処理問題がでてきた。「ゆめサンサンロード見守り隊(仮)」を結成し、地域の美化、啓発活動を取り組み、地域の人たちの繋がりや一体化事業を取り組むことにより、課題を解決する。	270,340	180,000	
12	新町区ふるさと盆踊り再興事業	新町区ふるさと盆踊り実行委員会	委員長	永濱 行夫	京丹後市	地域行儀の再興	新町地域は生活に便利な環境のため多くの転入者がいるが、地元で暮らす住民となじむ機会がなく、子供たちも都会に出て地元へ帰ってこないため人口減少の課題がある。新旧区民の一体感や未来の子供たちがふるさとに愛着を持つ気持ち等を育み、地域が持続的に発展できるよう事業を行う。	1,164,000	388,000	

平成29年度 地域力再生プロジェクト支援事業交付金 交付決定一覧(第1回分)

番号	事業名	団体名	代表者		事業実施地域	主な活動の種類	事業概要	事業費(単位:円)		備考
			役職名	氏名				事業費	交付金申請額	
13	近隣、都市住民などとの交流で地域の賑わいづくり	野間に移住を促進する会	会長	三本正樹	京丹後市	その他	野間は10集落で構成された地区だが、人口は200人以下に減少し地区全体で過疎化高齢化が深刻化しているため、都市部等からの移住促進を図るため、田舎暮らし体験や伝統的なイベントで地区住民と都市住民の交流の機会を作るとともに、先住者との交流会を開催し、移住を促進する。 【昨年度確定額 150千円】	450,000	150,000	
14	地域特産品の開発や地元住民・都市住民と交流	野間ふるさとキッチン	代表	民谷麻由子	京丹後市	地域産業振興	地域の農産物や山菜などを用いて試作を重ねてきた加工品を、地元イベントで販売するだけでなく、さらに改良を重ねながら販路を拡大し、野間ふるさとキッチンの経済基盤を安定させ、女性の仕事興しを目指すことで、地域の活性化を図る。また、京都市などの都市部への販路拡大を通して、都市住民との交流を図り、その中で野間地域への訪問や移住促進の一助になるようにしていく。 【昨年度確定額 96千円】	300,000	100,000	
15	味土野の資源を活用した都市住民等との交流	味土野区	区長	梅木好彦	京丹後市	農村・都市交流	細川ガラシャの隠棲の地として有名な味土野には、現在は3世帯5人しか住民がおらず、来訪者に体験してもらおうプログラムが整っていない。そのため、豊かな自然環境や歴史資源を生かし、近隣住民の手も借りながら歴史散策会、自然観察などを行い、近隣住民や都市住民との交流を深め、移住促進の取組を行う。 【昨年度確定額 100千円】	300,000	100,000	
16	京丹後市の総踊りの作成	京丹後よさこい連	代表	藤井美枝子	京丹後市	地域産業振興	京丹後地域の住民が健康で元気にくらせるよう、よさこいの演奏やよさこい体操を通して健康増進に取り組む。着物離れが進み、和装産業が衰退する中、2020年の丹後ちりめん創業300年に向けて幅広い年代の方々に着物や丹後ちりめんに興味・関心を持ってもらい、ちりめん産業の活性化を図る。 【昨年度確定額 173千円】	390,000	130,000	
17	みんなのワークショップデザイン&チャレンジ	丹後コミュニケーションデザインチーム	代表	丸山桂	京丹後市	その他	近年、まちづくりや地域文化づくり、課題解決や学び、世代間交流や相互理解ツールとしてワークショップが活用されているが、価値観や世代、立場が異なるために誤解が生じたり、主張を押しつける場となってしまう課題がある。丹後地域においては、若い世代が移住してきたり、障害がある方が社会参加する機会が増えるなど価値観や考え方は多様化しているが、学び実践する機会が少なく経験値が不足している。今後ますます重要となるワークショップのノウハウを学び、地域文化の醸成や相互理解を深める。 【昨年度確定額 388千円】	1,387,680	460,000	
18	久美浜まるごと実践事業	久美浜まるごと実践会議	会長	友松祐也	京丹後市	地域産業振興	久美浜地域では、少子高齢化に伴う過疎化と後継者不足等の社会的環境変化の影響から商店街、観光産業、農林水産業等の活用が減少し、地域の活力低下が顕著な状況となっている。久美浜まるごと実践会議では、地区活性化協議会や観光協会等と連携し、地域活力再生に向けたシナリオづくりと実践を目的として、新たなビジネスモデルの開発、人と経済の交流、地域づくり・にぎわいづくりに取り組む。 【昨年度確定額 382千円】	1,000,000	333,000	
19	人・物・情報の交流拠点『丹後王国「食のみやこ」』の活動情報を発信し丹後地域の活性化	丹後王国「食のみやこ」協力会	会長	錦織隆	京丹後市	地域産業振興	丹後地域は、景気低迷及び人口減少などとともに活気も軽薄している。丹後王国「食のみやこ」を人・物・情報の交流を拠点とし、商工・観光・織物・機械金属・農林水産業など幅広い分野の団体で構成される協力が地域内外への情報発信、イベント等による地域活性化を行う。 【昨年度確定額 1,500千円】	3,349,000	1,100,000	
20	伊根の伝統文化学習及び魅力発信事業	伊根浦発信館おちやのかか	代表	倉真知子	伊根町	地域産業振興	伊根浦発信館は立石地区の玄関口として賑わっていたが、人口減少や少子高齢化により交流が少なくなった。住民の居場所づくりのため8年前から開設し、伊根の歴史を語る資料館や地域の食材を使ったフンデーションレストラン(月1回)、様々なイベントを行っており、観光客や地元の人へ定着してきた。今年4月に開設した「舟屋日和」でこれからの観光客は増え、地域からも活動拡大の要望もあるなか、施設の老朽化が激しく危険なため改修を行うとともに事業の拡大を行う。	2,174,360	724,000	
21	立命館大学と連携した都市農村交流事業～地方創生×国際交流～	本庄地区農村環境保全会	会長	藤原正人	伊根町	農村・都市交流	高齢化が著しく、集落を牽引するリーダーや担い手の不足、地域活動や伝統行事の実施が困難、若者流出など、先人が残してくれた景観や伝統が活かせない状況にある。一方で、以前から交流があった立命館大学ボランティアからも地域との繋がりを求めており、立命館大学の人材、活力、アイデアと地域資源を連携させ、本庄地区の活性化を図る。	1,538,840	512,000	
22	森の恵みを楽しもう	よさの三四の森の会<イベント部門>	代表	茂籠好彦	与謝野町	環境保全	地域の森林保全に取り組み、間伐材を排出して建築用材、薪、ほた木、チップ材等の販売等をおこなっているが、整備が足りていない。森林・木材の活用を通じたイベントを通して、中三間地域の自然や生活文化の魅力を都市部に発信、地域の問題認識を高める。	2,369,000	770,000	
23	岩屋活性化事業	雲岩創成塾	塾長	坂根義隆	与謝野町	地域文化振興	地域のシンボルである雲岩公園は、地域住民参加行事でのコミュニティ形成の場になっているが、住民の高齢化や若者の流出等により地域行事への参加が減少し、公園も荒廃が進んでいる。多様な世代が地区行事に参加できる新たな機構を創出し、魅力の再発見や新たなコミュニティ形成、次世代に継承する契機とする。 【昨年度確定額 1,000千円】	2,362,060	780,000	
24	自分資源と地域ニーズをマッチングさせる母体(丹後版プロボノ)を作ろう	TANGOリハビリ研究所	代表	松本泰子	与謝野町	共助型福祉	地域の困りごと(車の送迎・買い物・弁当注文)をSNSや人的ネットワークで解決するためプロボノを使い、解決する試み。 【昨年度確定額 176千円】	577,069	184,000	

平成29年度 地域力再生プロジェクト支援事業交付金 交付決定一覧(第1回分)

番号	事業名	団体名	代表者		事業実施地域	主な活動の種類	事業概要	事業費(単位:円)		備考
			役職名	氏名				交付金申請額		
25	シーサイドサロンあそ	岩滝長寿会連合会	会長	糸井満雄	与謝野町	共助型福祉	高齢者の孤立を防ぎ、地域住民の憩いの場所づくりのみならず、地域の異年代との交流を図り、住民同士の連帯感を高め、地域の活性化に寄与する。 【昨年度確定額93千円】	305,240	93,000	
26	西林地を大切に思う再発見体感事業	西林地組	組長	石田義忠	与謝野町	地域文化振興	当地域の小学校も休校となり、古くからの伝統芸能が再開し、新たな団体活動もあるなか、人口減少は加速している。地域を守りたいためにUターンする者も多く、住んでいる地域が楽しい地域であることを子供たちに教え、Uターンし地域を守りたいと思う心を養うため、地域行事や地域を知る事業を行う。 【昨年度確定額 200千円】	514,000	171,000	
27	丹後ちりめん創業300年及び海の京都PRによる丹後地域の活性化	丹後小町踊り子隊	代表	藤井美枝子	広域	地域産業振興	京都府北部の基幹産業である「丹後ちりめん」は2020年に創業300年を迎えるが、着物離れが顕著となっており白無地生産量は平成28年で約31万反と全盛期の5%まで大幅に減少している。丹後小町踊り子隊は丹後ちりめんを身に纏い、PR活動を積極的におこなっており、本年度は丹後ちりめん創業300年のイベントや海の京都で豪華客船が寄港することから、積極的かつ持続的な活動により丹後の活性化を目指す。	510,000	170,000	
28	地域の歴史的建造物(酒蔵)を活用したまちづくり・ひとづくり	この丹後のかたすみで	代表	三田智子	広域	地域産業振興	ちりめん街道女子会の3年間の取り組みで一定交流人口の増加、街道の認知、地域住民の理解や協力は得ることができた。さらなる活性化に向けて、チャレンジショップやカフェの営業を酒蔵を活用し、人材育成や着物振興を福知山公立大学の学生や地域外の人とともに進め、課題解決を目指す。 【昨年度確定額 168千円】	503,000	167,000	
29	丹後の人と自然のより良い共生をめざして	人と自然の共生ネット	会長	森豊彦	広域	環境保全	自然遺産を発掘・調査・保全・広報できる団体が希であり、地域活性化につながっていない。また、鳥獣害等の団体のネットワークがなく、地域の環境の課題解決が困難となっている。希少種等の自然環境調査・保全対策やネットワークの推進、セミナーや保全活動等の支援を行う。 【昨年度確定額 200千円】	300,000	100,000	
								29,288,228	9,884,000	